

不安な毎日 食料感謝 民青が 学生支援

食費削っている 愛媛

コロナ禍に苦しむ学生たちを応援する「学生生活支援プロジェクト」食材も削っている(日本民主青年同盟愛媛県委員会主催)の10回目(4日、松山市で開かれました。108人の学生たちが訪れ、支援者の提供する食材や日用品などを受け取り「メッチャも

いますが、外食自粛ムードが続き、予約も入りません。シフトも減ったまま。食費を削っています」(3回生・男性)、「お客さんが来ません。バイトもいまだに週1回しか入れません。やりくりが大変」(3回生・女性)など、苦境が続いています。

今回も「密」を避けるため、ヒラやSNSで事前に予約を呼びかけ、来場時間を選択してもらい実施。当日は検温も行うなど感染対策を徹底しました。

初めて利用した留学生の男性は「感染が怖くてバイトも辞めました。不安な毎日でしたが、今日ここで、私たちのことを気にかけてくれる人たちと出会えました。本当にうれしい」と話しました。

愛媛県では新型コロナウイルス感染症確認数の減少に伴い、6月から酒類を提供する飲食店への営業時間短縮要請を解除。会食人数の制限緩和も進んでいます。「飲食店でバイトして

政治を変えたい 宮城

日本民主青年同盟宮城県委員会(菊地幹男委員長)は4日、無料で食料や日用品、生理用品を提供する「食ペプロ」を仙台市で行いました。

学生ら19人が訪れました。中国人留學生(30)は「オンライン授業で先生とのコミュニケーションが少なくなり、卒業がうまく進んでいない。アルバイトがなくなり、授業料、生活費の支払いに困っている」と相談。他の学生からは「給付金を再度お願いしたい」「授業関係のコピー費やインク、用紙代の負担も大きい」などの声が寄せられました。

「働きかければ政治は変えられるんですね」と興味を示したのは、特別支援学 校教員をめざす大学4年生。「教育現場が多忙化し、一人ひとりの子どもに

向き合えない実態がある。子どもたちに向き合える教員になりたい」と願いを語りました。

↓関連の面